

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年11月4日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676300173
法人名	(有) すりい
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホームふれあい館
所在地	鹿児島県曾於市大隅町月野3486-3 (電話) 099-482-5333
自己評価作成日	2024年 9月 12日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和6年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

★「ゆったりと さりげなく 住み慣れた地域の中で あなたが あなたらしく」の基本理念のもとで、「同じ空間で 過ごす 家族の一員」としての意識を持ち、日々の生活支援を行っています。

★ 日々の生活の中に「特別なこと」はありませんが、入所者と職員、それぞれが自然な形で、それぞれが自分らしく一緒に過ごす時間を大切にしています。

「泣いて」「笑って」「起こって」・・・。
と同時に、御家族との「絆」「繋がり」も維持・継続できるように努めています。

★ 職員は 各自「信頼」「協力」「理解」を 「・・・する」のではなく、相手に「・・・してもらう」ことができるように心掛けて、日々のケアに努めています。

★ 外部の方・御家族が気軽に「おばあちゃん・おじいちゃんの所に（家に）

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは幹線道路沿いにあり、周辺にはスーパーや自動車販売店、家畜市場やJAの直営市場、道の駅等もある利便性の優れた場所であり、地域住民からは日常的に野菜のお裾分けを頂いたり、小学校との交流にも積極的に取り組むなど地域や学校との交流を促進させている。

理念である「ゆったりと さりげなく 住み慣れた地域の中で あなたがあなたらしく」をホームの玄関や踊り場、フロア内の目につく場所に掲示することで意識づけを図るようにしており、特に人それぞれの「らしさ」を大切にしながら、利用者のしたいこと、したくないことなど利用者の気持ちを考慮する等してパーソンセンタードケアにつなげられるよう日々の支援に努めている。

食事は利用者にとって楽しみなものになるよう季節毎の行事食メニューを工夫しており、また毎日のメニューに利用者の食べたいものが反映できるよう当日メニューを決めている。毎日の調理には利用者も一緒に台所に入り、野菜をカットするなどの調理の下ごしらえや食器洗いなどに参加している。菜園ではピーマンやトマト、水菜やパセリなどをプランターで育て食材として利用したり、利用者の希望に応じてビールや焼酎などのアルコールも飲めるなど、これまで自宅で行ってきた生活が継続できる環境を整えている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は各フロア内の数か所に提示し、視覚にて確認・意識してできるようにしています。 また、研修や申し送り時に、 <u>振り返り・認識に努めて</u>	玄関やフロア等の目につく場所に理念を掲示し、職員会議において理念を実践できているかを振り返る機会も設けている。特に「あなたがあなたらしく」を大切に考え、パーソンセンタードケアの実現に向け日々の支援につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との繋がりを再開することができるようになってきています。	コロナ禍以降制限されてきた地域行事への活動は徐々に再開されつつあり、小学校のいきいき学習のための訪問や慰問の受け入れのほか、市民祭への作品展示等により交流している。また、地域住民からの野菜のお裾分けも多くあり、利用者との交流も盛んに行われている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	認知症の人の理解や共生の為に「認知症カフェ」や「キャラバンメイト」等の活動に協力しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は施設にて、会議を行い、率直な意見を双方が交わすことで、内容も深く追求し、幅広く話し合いができています。 欠席者に対しては、議事録の郵送を行っています。	会議には、家族代表や地域住民代表、民生委員や行政職員等が参加し、ホームの活動内容や利用者状況の説明のほか、小学校との交流促進についてや防災について等、多様な意見をもらう場となっている。また、話し合われた内容は毎月のお便りに記載することでメンバー以外にも報告できる仕組みを整えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者とは、日頃より連携を取っています。支援についての相談も行い、協力関係を継続・維持することができています。	行政職員とは運営推進会議で顔を合わせるほか、相談事がある時等に電話や出向く等して助言をもらっている。また、行政主催のケアマネ研修会に参加したり、自立支援事業やキャラバンメイト活動等を通して社会福祉協議会とも日常的に連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月ごとに「身体拘束適正化委員会」を開催しています。また、施設内研修・事例検討等を行っています。	年2回職員会議の中で身体拘束に関する研修会を行うほか、3か月毎に身体拘束適正化委員会を開催し、事例なども参考にしながら拘束のないケアについてを話し合い確認している。また、高齢者虐待防止に関する指針や身体拘束廃止に関する指針も整備し、その人「らしさ」とは何かを職員間で話し合いながら利用者本位の自由な暮らしにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修に参加し、意識を持つようにしています。また、見逃すことの無いように、注意できるように努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度のついては、専門性が高い為、一部の職員に留まっているのが現状です。「日常生活自立支援事業」を利用している入所者もあり、担当者と連携を取っています		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所相談時・入所時に、説明を行っています。また、内容に変更・追加等が生じた場合は、その都度、口頭・文書にて同意を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会・電話、メール等にて、家族が職員へ伝えることができるようにしており、ケアに繋がるように努めています。	利用者の意見や思いは日常生活の中で見せる表情や会話、気づき等を参考に、家族の意向については面会時やメール、電話やLINE等も活用しながら汲み取っている。また、毎月の請求書送付の際にお便りとは別に個別の写真と日々の様子についてを知らせることで、意見や感想をもらうことがあるため運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見・要望等を自由に発言、提案・実践できるような雰囲気作りに努めています。	職員の意見は日々の申し送り時や職員会議のほか、日常的に自由に意見を出してもらっており、出された意見や要望については否定することなく、取り合えずやってみることを優先させている。このほか、資格取得時の補助や休日の取りやすさ等にも配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設の運営やケアに支障がないように、環境・条件整備等に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれが「自分にできるケア」を利用者に対して行えるように努めています。同時にスキルアップへの助言・支援等に努めています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加への支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して、話すことができるように空間・環境・雰囲気作りを行い、利用開始後の良好な関係作りに繋がるように心掛けています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が安心して、話すことができるように空間・環境・雰囲気作りを行い、利用開始後の良好な関係作りに繋がるように心掛けています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	双方の状況・様子を観ながら、話を聴き「ニーズの優先」を判断し、検討を行っています。また、必要な状況においては、他の施設やサービス等の説明・紹介等を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「同じ空間で過ごす家族の一員」としての意識を持ちながら、日々のケアに努めています。何気ない会話やケアの中で、それぞれの関係性が築かれています		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・外出、また居室で家族と共に過ごす時間を大切にしています。御家族との「絆」が途絶えないように努めています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	主となる御家族以外にも知人・孫等、遠方からの面会が増えました。御家族の希望等があり、冠婚葬祭等、職員が付き添って対応することもあります。	馴染みの関係についてを入居時の初回アセスメントにおいて聞き取りを行うが、詳細については入居後の生活の中や日常会話から把握するようにしている。入居後、友人や知人と関係が途切れないよう面会や外出は自由にしており、冠婚葬祭等においても職員が付き添い支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各フロアにおいて、利用者同士の関係性・距離間を大切にしています。その中でより良い「馴染みの関係」への支援を行っています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や看取り等で退所（終了）の場合も必要に応じて、御家族の相談や支援等を行っています。本人退所後も、御家族と良好な関係を継続しているケースもあります。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとり、症状の進行や高齢化・状態の変化がある為、本人の行動・状況に合わせた対応に努めています。	入居前の様子を家族や病院職員、ケアマネから情報収集することは基より、実際に本人と面談することで直接本人の思いや意向を確認するようにしている。本人が上手く表現できない場合は、アイコンタクトも考慮して気付きを得るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活状況・御家族の情報・また、関係者からの情報等を収集して「本人の生活歴」の把握に努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日・その時・本人が「何を望んでいるのか?」「何をしたいのか?」を本人との関り、日常生活の中で探り、把握できるように努めています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	何気ない日常生活の中で、状態・心身の状況を勘案しながら「本人らしく」過ごすことができるように、本人・御家族等から意見（電話・メール等を含めて）を聴き「ケアプラン（計画書）」を作成しています。	ケアプラン作成時は本人に直接思いや意向を尋ねたり、家族には電話やメール、面会時等に尋ねプランに記載するほか、わかりやすい具体的な日常生活に基づいたプラン作成がなされている。また、随時行われるカンファレンスや定期モニタリングにおいてプランが実践されているかや変更点についても話し合い確認することで現状に即したケアプランとなっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録は「タブレット」（R6.4月～）への入力しています。全職員が、自由に入力・確認等を行い、情報共有に努めています。また、申し送り等で細かな気づきを報告し、ケアへ繋げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	発生した「その時のニーズ」に対して、必要な支援を適切に行うことができるように努めています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所者の状態や要望等に応じて、対応できるように努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは良好な関係を維持し、継続することができています。また、協力医療機関以外の医療機関においても連携や情報交換等に努めています。	入居前のかかりつけ医を把握し、入居後も本人と家族の希望するかかりつけ医を受診できるよう他科受診も含め職員が対応しているが、遠方の病院の場合は家族に受診をお願いしている。また、通院が難しい場合等は協力医療機関による定期訪問診療も受けられるため安心な医療体制が構築されている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員へ報告や相談等を行い、助言を頂き、支援をしています。また、協力医療機関・訪問診療・看護ステーション等の看護師への相談等も行っており、連携は取れています。柔軟・適切な受診支援を受けることができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、医療関係者と情報交換を行い、早期の退院に繋げるように努めています。また、日頃より医療関係者との連携も継続しており、良好な関係を維持しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・御家族が望まれた場合、関係機関を含めて、話し合い・検討します。方針を共有しながら、他の関係者の協力を頂き、「看取り」への支援を全職員に行っています。	入居時に「重度化した場合の対応に関わる指針」「看取り同意書」を備えるほか「意思確認書」により延命に関する説明も行い同意署名をもらっている。「重度化した場合の対応に関わる指針」に関しては、内容が看取りに関する内容が中心であるため、今後は書式の変更を検討していく予定である。看取りを行う際は本人家族は基より医療機関との連携も十分に適切な支援がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は「救命救急講習会」を受けています。また、入所者においては「意思確認書」を頂いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災の研修を行っています。 また、消防署立ち合いで「夜間」を想定した「防災訓練」も行います。 その際、運営推進委員の方々も協力を頂いています。 「BCP」のマニュアル作成を行い、研修等にも努めています。	年2回消防署の立ち合いの下、夜間想定 の災害訓練が運営推進会議のメンバーも 参加して行われている。備蓄に関しては 貯水タンクによる飲料水や各フロア毎に 米やレトルト食品等の食材を管理するほ か、カセットコンロやラジオ、ヘルメッ トを備え、利用者全員分の防災頭巾も備 えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援（1F）					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人に応じた声かけに努めています。不快な思いを持つことがないように日々の声かけに努めています。	倫理や法令順守、プライバシー保護に関する研修会を年間研修計画に組み込み実施しており、普段からトイレ誘導時の声のトーン等にも配慮している。申し送りの際は近くにいる利用者に聞こえないよう声の大きさやチェック表等を指し示すなどして実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の様子・表情・動作等を見ながら、その人に応じた声かけを行い、意思表示ができるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「自分のペース」で過ごすことができるように、努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	整髪の際、好みを聞きながら、カット等行っています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に作業をする機会が少なくなりましたが、一部の方が洗濯物を畳む等、見守りの中ですることができています。	特に献立は定めず、当日の調理担当職員が食材を見て判断したり、利用者に食べたいものを尋ね当日メニューを決めている。テーブル拭きや食器洗い、野菜のカット等の下ごしらえに利用者も参加しており、また季節の行事食も工夫するなど食べる楽しみを大切に組み入れている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの摂取量や食事形態（一口大・キザミ・トロミ等）を把握して対応しています。好き嫌い等へも配慮します。また、目でも楽しむことができるように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の状況（義歯の有無・残歯等）の把握をして、本人に応じた（見守り・介助等）口腔ケアに努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	それぞれの排泄パターンや使用している介護用品を把握して、本人に応じた支援を行っています。また、使用している介護用品においても検討を行っています。	ポータブルトイレを使用する方も日中はトイレでの排泄を基本とし、布下着やパット、リハビリパンツ等、排泄状況に合わせた補助具の使用を排泄チェック表も参考にしながら個別に対応している。また、これらの一連の工夫や対応については統一した支援につなげられるようケアプランに組み込まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それぞれの排泄パターンを把握して、本人に応じた支援（便秘薬調整）を行っています。また、使用している介護用品においても検討を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は決めていません。本人の状況に合わせてながら対応しています。	入浴日は特に決めておらず、週2回～3回程度、体調等を考慮して入れるよう支援している。入浴をためらわれる時は、声をかける時間やタイミング、職員を変えるなどして促すことで無理強いしないよう対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は設定していません。本人の生活パターンに応じた睡眠ができるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬を正確に確実に服用できるようにチェック・確認しています。また、服薬困難の場合は主治医と相談し、処方薬の変更等の検討をお願いしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりに応じた対応に努めています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	心身の状態で、外出等が困難になっていることも否めません。	車椅子利用者が増えてきているため全員での外出は難しくなっているが、可能な限り戸外に出かけられるよう個別で出かける機会を設けている。主な外出先としては、物産館や霧島神宮、神話の里、道の駅などに出かけており、受診の際にドライブがてら公園まで出かけることもある。また、8月に実施できなかった花火を10月に実施する計画も立てている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を居室内で所持することはできませんが、要望があれば、事務所にて預かる等の対応を支援します。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	御家族からの電話に対して、本人が自由に話せるように支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して、不快感を持つことがないように配慮しています。夜間においては、本人の希望に応じて照明を調整しています。また、季節感を感じることができるよう、壁面や季節の草花等を飾っています。	広いフロアのサッシからの採光は十分であり、1階は庭に、2階はテラスに出ることができる造りになっている。利用者も自由に出入りする台所は対面式のため扱いやすく、食事の際は利用者が落ち着いて食べることができるよう座席位置に配慮している。また洗濯物が乾くと利用者同士、テーブルを囲んで洗濯物たたみを行うなど居心地の良い共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が、自由に好きな場所で過ごすことができるように支援しています。また、気の合った同士で過ごすことができるように工夫しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの個室において、好みの装飾（写真・絵等）ができるように支援しています。 また、個人でテレビを持ち込み視聴されています。	エアコン、ベッド、収納棚が備え付けられており、テレビや仏壇、位牌や小物類等を自由に持ち込んでもらっている。これまでは鳥を飼っていたり、火鉢を持ち込まれる方がいるなど、冷蔵庫を含め持ち込みを制限している物はない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・浴室等、プレートで示し、目的の場所に行くことができるように工夫しています。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない